



学術情報のオープン化が導く大学の将来 土屋俊氏(大学評価・学位授与機構教授)

20世紀におけるソフトウェアのオープン化に端を発し、21世紀には研究成果のオープン化、学習資源のオープン化、高等教育のオープン化として観察される知識のオープン化の動向は、学術、知識の役割の再考を促す要素となっている。大学という脈絡においてこの動向は、大学図書館の役割を越え、大学の社会的機能、役割の変容の原因あるいは結果として理解することができる。

とくに近年の関心のひとつは、誰もが負担なしに利用できる便宜の質の維持である。オープン化した環境において、たとえば査読による質の維持、管理、大学システムの観点からの評価による質の保証という概念とそれに基づく方法の実効性を信じているのかという問題を論じる。

2014年度 第3回 千葉大学アカデミック・リンク・セミナー オープン化する研究情報流通と 学習との接点

日時：2014年10月21日(火) 14:30~16:30

会場：アカデミック・リンク・センター
1棟1階コンテンツスタジオ

終了後、リニューアルオープンしたL棟の見学会を開催します。

千葉大学CURATORの10年 オープンアクセスの10年

尾城孝一氏

(国立情報学研究所学術基盤推進部次長)

CURATORの開設から10年このかたの、オープンアクセス思潮をとりまく動向を概観し、現在の大学及び大学図書館が直面している学術情報流通の諸課題の今後について展望する。



<お申し込み方法>

氏名・所属・職名・連絡先 (E-mail) をご記入の上、前日までにメールでお送りください。

宛先：alc-info@chiba-u.jp

件名：セミナー申込み

問い合わせ先：千葉大学アカデミック・リンク・センター

<http://alc.chiba-u.jp/> / Tel:043-290-2243, FAX:043-290-2255

Academic Link